

國學院大學学術情報リポジトリ「K-RAIN」

スタッフ紹介

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 國學院大學 公開日: 2024-07-02 キーワード: 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002000556

スタッフ紹介

※ 氏名、現職、専門分野、担当研究事業、および2018年度の研究業績について紹介します。今年度新任のスタッフに関しては、研究紹介および2017年度以前の研究についても掲載します。なお、掲載順は担当研究事業を基に、現職・五十音順に従うものとします。

平藤喜久子 所長・教授 神話学・宗教学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

【口頭発表】

- ・(学会発表) The Relationship in Japan between the Media and Young People's Perceptions of Religion, XIX ISA World Congress of Sociology, International Sociological Association, Toronto, Canada, 2019.7.15-21.
- ・(研究発表)「神話と儀礼をめぐって」International Workshop, organized by Edwin O. Reischauer Institute of Japanese Studies at Harvard University, 2018.9.20.
- ・(研究発表)「図像にみる神意識—ポップカルチャーを手がかりに—」奈良県立万葉文化館第6回主宰共同研究・神話の視覚化に関する比較文化的研究、於奈良県立万葉文化館、2019年3月16日。
- ・(ラウンドテーブル)“Changing Perspectives on Area Studies” MONUMENTA NIPPONICA, 80th Anniversary Symposium, Sophia University, 2018.10.6.
- ・(講演)「願いを叶える神社」学習院大学図書館セミナー、於学習院大学、2018年6月26日。
- ・「神話を知って神社に行こう！」神々と食の前夜祭～みやぎの神話と食を楽しむ～、宮崎県主催、於大手門タワー JX ビル 1F、2018年7月24日。
- ・(講演)「神話で学ぶ神道文化」山形県神社総代会研修会、於山形市、2018年8月3日。
- ・(講演)「日向の女神と世界の女神たち」神話のふるさと県民大学—宮崎県立看護大学・宮崎県立図書館主催リレー講座、於宮崎県立図書館、2018年9月1日。
- ・(講演)「神社と神道文化」横須賀三浦連合氏子総代会総会、於横須賀市セントラルホテル、2018年10月12日。
- ・(講演)「ポップカルチャーにみる現代日本の宗教意識」ボン大学、2019年2月12日。

【その他】

- ・(分担執筆) 宗教文化教育推進センター編『解きながら学ぶ日本と世界の宗教文化』集広舎、2019年3月。

黒崎浩行 教授 宗教社会学、現代社会と地域神社

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

【論文】

- ・「超高齢社会の到来と神社に関する意識への影響」『第4回「神社に関する意識調査」報告書』神社本庁総合研究所、2018年6月、115-121頁。
- ・「地域社会と神社・祭り：人口減少と地域再生の中で」堀江宗正責任編集『いま宗教に向きあう 1 現代日本の宗教事情 国内編 I』岩波書店、2018年9月、55-72頁。
- ・「福島県浜通り沿岸地域の復興と神社」星野英紀・弓山達也編『東日本大震災後の宗教とコミュニティ』ハーベスト社、2019年2月、251-265頁。

【口頭発表】

- ・「宗教施設と地域防災との関係認識の多様性とその要因」(パネル「宗教施設を地域資源とした地域防災のアクションリサーチ」) 日本宗教学会第77回学術大会、於大谷大学、2018年9月9日。

- ・「脆弱性とレジリエンスから考える神社と地域防災との関わり」(パネル「神社や神道文化を地域資源とした地域防災のアクションリサーチ」) 神道宗教学会第72回学術大会、於國學院大學、2018年12月9日。

[その他]

- ・(コラム)「防災が紡ぎ出す渋谷の人々のつながり」國學院大學研究開発推進センター渋谷学研究会編『ブックレット渋谷学01』國學院大學研究開発推進センター、2019年2月、164-168頁。

ノルマン・ヘイヴンズ (HAVENS, Norman) 教授 日本宗教史、日本の民間信仰
担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

[論文]

- ・(Essay)「Yakushi-kō Retasking Religion in a Small Town」『國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所年報』11号、2018年9月、30-39頁。

藤澤紫 教授 日本美術史、日本近世史、比較芸術学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

[口頭発表]

- ・(講演) 第12回国際浮世絵学会賞受賞記念講演「愛される「美人画」—暮らしとメディア文化—」第20回国際浮世絵学会春季大会、於法政大学、2018年6月10日。
- ・(講演) ミニシンポジウム「鏡と神道文化」一般財団法人神道文化会第20回公開講演会、於國學院大學、2018年6月17日。
- ・(講演)「「水」色の文化史—日本美術の名品を味わう—」、「[企画展] 水を描く—広重の雨、玉堂の清流、土牛のうずしお—」山種美術館、於國學院大學、2018年7月21日。
- ・(講演)「遊べる浮世絵」國學院大學哲学会第33回総会、於國學院大學、2018年10月20日。
- ・(講演)「浮世絵の楽しみ—「名所絵」でよむ江戸文化」國學院大學院友会南多摩支部講演会、於マロウドイン八王子、2018年7月8日。
- ・「講座 ものがたる美術—江戸絵画にみる『源氏物語』の受容—」平成30年度伝統文化に学ぶ講座(東京)、於國學院大學、2018年7月29日。

[その他]

- ・(ミュージアムトーク)「悪は美しい」多分野連携特集展示「悪—まつろわぬ者たち—」於國學院大學博物館、2018年7月7日。
- ・(テレビ監修)「浮世絵EDO LIFE」NHK BS4K、2018年4月~2019年3月(2018年度分)。
- ・(連載)「浮世絵と遊ぼう! (1)~(12)」時事通信(河北新報、八重山毎日新聞、長野日報、陸奥新報、苫小牧民報)、2018年4月~2019年3月(2018年度分)。
- ・(インタビュー)「Academic Milestones—学びを究める力「江戸文化に「遊び心」があふれていたように学びの中にも「遊び心」を見つけていこう」前編、公文スペシャルインタビューVOL051 [https://www.kumon.ne.jp/kumonnow/special/052_1/] 2019年2月1日更新。
- ・(インタビュー)「Academic Milestones—学びを究める力「江戸文化に「遊び心」があふれていたように学びの中にも「遊び心」を見つけていこう」後編、公文スペシャルインタビューVOL052 [https://www.kumon.ne.jp/kumonnow/special/052_2/] 2019年2月8日更新。

遠藤潤 教授 宗教学、日本宗教史(近世・近代)

担当研究事業「國學院大學 国学研究プラットフォーム」の展開と国学史像の再構築」

[口頭発表]

- ・「宗教史から見た幕末維新期の平田国学」第29回明治聖徳記念学会シンポジウム「平田国学の幕末維新」、於明治神宮、2018年7月14日。

- ・「文政期の平田国学—著述と活動の特質について—」日本宗教学会第77回学術大会、於佛教大学、2018年9月8日。
- ・「平田篤胤『仙境異聞』再考」神道宗教学会例会、於國學院大學、2018年11月24日。
- ・「平田篤胤と暦象」科学研究費補助金「近代日本における暦の流通と仏教・神道・陰陽道の展開に関する宗教社会史的研究」（研究代表者：岡田正彦）、於東洋大学、2018年12月2日。

松本久史 教授 近世・近代の国学・神道史

担当研究事業「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の展開と国学史像の再構築」

【論文】

- ・「明治維新と国学者—京都—力亭主人杉浦治郎右衛門を例に—」『明治聖徳記念学会紀要』復刊55号、2018年11月、33-55頁。

【口頭発表】

- ・（司会）第29回明治聖徳記念学会シンポジウム「平田国学の幕末維新」、於明治神宮、2018年7月14日。
- ・「国学研究史上の荷田春満」公開研究会「荷田春満の国学と国学史学説の再検討」、於國學院大學、2018年11月18日。

【その他】

- ・（討議記録）「討議 平田国学の幕末維新」（宮地正人、遠藤潤、三ツ松誠、阪本是丸と共著）『明治聖徳記念学会紀要』復刊55号、2018年11月、147-161頁。

星野靖二 准教授 近代日本宗教史

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

【論文】

- ・「『明教新誌』 解題—創刊から明治21年頃までを中心に—」『國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所年報』11号、2018年9月、40-55頁。
- ・「日本文化論の中の宗教／無宗教」西村明責任編集『隠される宗教、顕れる宗教（いま宗教に向きあう2）』岩波書店、2018年10月、187-203頁。
- ・「幕末維新时期のキリスト教という「困難」」岩田真美・桐原健真編『カミとホトケの幕末維新——交錯する宗教世界』法蔵館、2018年11月、265-288頁。
- ・「明治前期における仏教者のキリスト教観—『明教新誌』を中心に—」『國學院大學研究開発推進機構紀要』11号、2019年3月、1-32頁。

【口頭発表】

- ・「『明教新誌』の検討—明治二〇年頃までを中心に—」日本近代仏教史研究会第26回大会、於佛教大学、2018年5月26日。
- ・「明治前期における仏教者のキリスト教観—『明教新誌』を中心に—」日本宗教学会第77回学術大会、於大谷大学、2018年9月9日。
- ・“The Development of Knowledge about Religion (s) in Meiji Japan Takahashi Gorō and His Opponents” at the first Tohoku Conference on Global Japanese Studies, held at Tohoku University, 2018.12.16.
- ・（招待報告）「明治10年代の仏教メディアの再検討—「新仏教」に至る道筋として」日本宗教史懇話会サマーセミナー、於長崎歴史文化博物館、2018年8月28日。
- ・（招待報告）「井上円了と清沢満之—宗教と信の問題を焦点として—」第5回清澤満之研究交流会、於求道会館、2019年3月4日。

エリック・シッケタンツ (SCHICKETANZ, Erik)

助教 近代日本の宗教、近代中国の宗教、宗教と政治

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

【研究紹介】

私が注目している研究領域は東アジアにおける仏教の近代化および近代国家と宗教の関係である。本来は主に清末以降の日中仏教交流が中国仏教の近代化に与えた思想的な影響を具体的な研究対象として考察してきたが、近頃は視野を広げて、昭和初期の華北地方における日中関係において宗教が果たした役割を事例として、宗教、政治、軍事、経済という諸領域の複雑な交差を研究対象としている。

【単行本】

- ・『墮落と復興の近代中国仏教—日本仏教との邂逅とその歴史像の構築—』法蔵館出版、2016年7月。

【論文】

- ・「現代中国における清明節の復活—共産党政権の文化政策における祖先祭祀の位置付けについての考察—」『死生学研究』13号、2010年1月、193-216頁。
- ・“Wang Hongyuan and the Import of Japanese Esoteric Buddhism to China during the Republican Period” Tansen Sen, *Buddhism Across Asia Networks of Material, Intellectual and Cultural Exchange* Vol. 1, Institute of Southeast Asian Studies Singapore, 2014.3., pp.87-108.
- ・「近代中国仏教における宗派概念とそのポリティクス」末木文美士・林淳・吉永進一・大谷栄一編『ブツダの変貌』法蔵館出版、2014年3月、87-108頁。
- ・“Narratives of Buddhist Decline and the Concept of the Sect (zong) in Modern Chinese Buddhist Thought”, *Studies in Chinese Religion*, Vol.3-3, 2017.11., pp.281-300.

【口頭発表】

- ・「民国時期救劫思想と政治論述—以悟善社・救世新教を中心—」国際シンポジウム「扶鸞文化與民眾宗教」、於仏光山大学（台湾）、2018年5月29日。

齋藤公太 助教 日本思想史・宗教史

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の展開と国学史像の再構築」

【単行本】

- ・『「神国」の正統論—『神皇正統記』受容の近世・近代—』ペリかん社、2019年2月。

【論文】

- ・「随神の気風—植村正久における神道観の諸相—」『國學院大學研究開発推進機構紀要』11号、2019年3月、33-66頁。

【口頭発表】

- ・「中世の皇位継承」平成30年度藝林会学術研究大会「皇位継承の歴史的検証」、於京都産業大学、2018年9月2日。
- ・「植村正久における神道観の諸相」キリスト教史学会第69回大会、於北陸学院中・高等学校、2018年9月15日。
- ・“The Transfiguration of *Karagokoro*: the Reception of the Mito School Thought by National Learning in the Meiji Period” 国際研究フォーラム「アジアの宗教文化—モダニティの中での相互変容—」、於國學院大學、2018年10月20日。
- ・「海老名弾正の神道観について」神道宗教学会平成30年度第5回研究例会、於國學院大學、2019年1月26日。
- ・（講演）「垂加神道と国学—その関係をめぐる研究史—」第3回国学研究プラットフォーム公開レクチャー、於國學院大學、2019年2月27日。

[その他]

- ・「近代日本キリスト者の神道観に関する資料目録（1）」（木村悠之介と共著）『國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所年報』11号、2018年9月、106-113頁。
- ・「学生との対話といういとなみ」『大学時報』384号、2019年1月、106-107頁。

吉永博彰 助教 中世・近世の神道史、神社有職故実

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

[論文]

- ・「稲荷信仰にみた神璽の様相—近世の神体勧請を手掛かりに—」『朱』62号、2019年3月、211-233頁。

[口頭発表]

- ・（ミュージアムトーク）「中世東国武士の神社信仰と刀剣」、〔特別展〕「神に捧げた刀—神と刀の二千年—」於國學院大學、2019年2月9日。

[その他]

- ・「〔神への捧げものから生まれた日本文化EP1〕なぜ刀は〔神聖なもの〕となったのか—現代に続く名刀、本当の歴史—」『Discover Japan』Vol.88、2019年1月、168-171頁。
- ・（図録論考）「武士の神社信仰と刀剣について」〔特別展〕「神に捧げた刀—神と刀の二千年—」國學院大學博物館、2019年1月、64-65頁。
- ・（項目執筆）「名神祭」岡田莊司編『事典 古代の祭祀と年中行事』吉川弘文館、2019年1月、256-259頁。
- ・「〔神への捧げものから生まれた日本文化EP2〕日本古来の〔芸能〕が歩んだ道のり—祭りの変化がもたらした、今の姿—」『Discover Japan』Vol.89、2019年2月、142-143頁。
- ・「〔神への捧げものから生まれた日本文化EP3〕〔御幣〕が捧げものとして持つ本当の意味—そこには、その時代の最先端があった—」『Discover Japan』Vol.90、2019年3月、176-177頁。

加藤久子 客員研究員 宗教社会学、歴史社会学、宗教文化論

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

[論文]

- ・「政治に分断されるカトリック教会—ポーランドにおけるポピュリスト政党と宗教保守層の動向—」『上智大学ヨーロッパ研究叢書12ヨーロッパの世俗と宗教』2019年3月、114-128頁。

[口頭発表]

- ・「ポーランドにおける右派勢力とカトリック教会」日本比較政治学会第26回研究大会、於東北大学、2018年6月23日。
- ・「ポーランド「三月事件」を結ぶ点と線—ワルシャワ・バチカン・エルサレム—」国際シンポジウム「1968年再考—グローバル関係学からのアプローチ—」、於東京大学、2018年12月16日。

[その他]

- ・「ウクライナ正教会の独立をめぐる問題」『ラク便り』81号、2019年3月、64-67頁。

チャールズ・フレیره (FREIRE, Carl) 客員研究員 近代の日本史（特に社会史・思想史）

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

今井信治 PD研究員 宗教社会学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

[論文]

- ・「アナログゲームにおける宗教表象の位相」『國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所年報』11号、2018年9月、56-69頁。

村上 晶 PD研究員 宗教社会学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

【その他】

- ・(書評・紹介)「大道晴香著『「イタコ」の誕生 マスメディアと宗教文化』『神道宗教』250号、2018年4月、181-184頁。
- ・(ラジオ出演)「Supernatural Japan」BBC Radio3、2018年4月22日。
- ・(コラム)「「あの世」はどこに？」『CINEX Web Journal』5号、2018年12月、4頁。

問芝 志保 PD研究員 宗教社会学、日本宗教史

担当研究事業「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の展開と国学史像の再構築」

【論文】

- ・「明治民法と祖先祭祀論」鈴木岩弓・森謙二編『現代日本の葬送と墓制—イエ亡き時代の死者のゆくえ—』吉川弘文館、2018年6月、56-62頁。
- ・「関東大震災と家族納骨墓—近代都市東京の墓制—」『宗教研究』393号、2018年12月、51-74頁。
- ・「先祖祭祀と墓制の近代—「国民的習俗」形成の宗教社会学的研究—」(筑波大学博士(文学)学位請求論文)、2019年3月。
- ・「明治大正期の東京における名墓の観光化」『宗教学・比較思想学論集』20、2019年3月、(印刷中・頁数未定)。

【口頭発表】

- ・「東京における家族納骨墓の成立とその背景—関東大震災後の墓制—」「宗教と社会」学会第26回学術大会、於帝京科学大学、2018年6月10日。
- ・「第1部コメント」シンポジウム「死者と生者の共同性—葬送墓制の再構築をめざして—」於早稲田大学、2018年12月15日。
- ・「関東大震災と「家墓」の成立」ワークショップ「災害から生まれたもの—遺体、慰霊、遺族、遺物—」、於東北大学、2019年2月12日。
- ・「国民道徳論と祖先祭祀—国民的習俗の実践教育—」大正宗教学会2018年度秋期大会、於大正大学、2019年3月8日。
- ・「明治初期における神葬祭墓地の理念と実態に関する調査研究」平成30年度共同利用型共同研究成果報告会、於国立歴史民俗博物館、2019年3月19日。

丹羽 宣子 PD研究員 宗教社会学・ジェンダー論

担当研究事業「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の展開と国学史像の再構築」

【単行本】

- ・『〈僧侶らしさ〉と〈女性らしさ〉の宗教社会学—日蓮宗女性僧侶の事例から—』晃洋書房、2019年2月。

【論文】

- ・「マインドフルネスの流行と日本仏教界」宗教情報リサーチセンター編・井上順孝責任編集『日本における外来宗教の広がり—21世紀の展開を中心に—』2019年3月、155-164頁。

【その他】

- ・「大相撲における土俵の女人禁制」『ラク便り』79号、2018年8月、38-42頁。
- ・(研究ノート)「日蓮宗に見られる女性僧侶の多様性」『國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所年報』11号、2018年9月、114-124頁。
- ・「オウム真理教死刑囚の死刑執行に対する〈国内〉メディアの反応」『ラク便り』80号、2019年11月、41-45頁。

小高 絢子 研究補助員 宗教社会学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

[口頭発表]

- ・「フィルム・ツーリズムと宗教空間の変容—『男はつらいよ』の地柴又と柴又帝釈天を事例に一」観光学術学会第7回大会、於二松学舎大学、2018年7月8日。
- ・「メディアイメージにおける寺院側の対応」日本宗教学会第77回学術大会、於大谷大学、2018年9月8日。

[その他]

- ・(大会発表要旨)「フィルム・ツーリズムと宗教空間の変容—『男はつらいよ』の地柴又と柴又帝釈天を事例に一」『観光学術学会第7回大会発表要旨集』、2018年7月、60-61頁。
- ・(修士論文発表要旨)「柴又帝釈天における意味づけの変容と場所の体験」『宗教学論集』第38号、2019年1月、100-101頁。
- ・(学術大会発表要旨)「メディアイメージにおける寺院側の対応」『宗教研究』第92巻別冊、2019年3月、431頁。

高田 彩 研究補助員 宗教社会学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

[論文]

- ・「宿坊経営における女性家族の役割—武州御嶽山を事例として—」『日本文化研究所年報』11号、2018年9月、70-87頁。

[口頭発表]

- ・「武州御嶽山の宿坊における女性家族の役割」日本宗教学会第77回学術大会、於大谷大学、2018年9月9日。
- ・「宿坊運営における女性の役割—武州御嶽山の婚姻の事例を中心に—」「宗教と社会」学会第26回学術大会、於帝京科学大学、2018年6月9日。

天田 顕徳 共同研究員 宗教社会学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

[論文]

- ・「〈新しい聖地ネットワーク〉の進展」『日本における外来宗教の広がり：21世紀の展開を中心に』宗教情報リサーチセンター、2019年3月、62-77頁。

[口頭発表]

- ・「デジタル時代の山岳巡礼における「葛藤」—ツーリズムが伝統宗教にもたらしたもの」観光学術学会第7回大会、於二松学舎大学、2018年7月8日。
- ・「現代における山岳修行とモノ」日本宗教学会第77回学術大会、於大谷大学、2018年9月8日。
- ・「現代の山岳修行における行と経験」西日本宗教学会第9回学術大会、於龍光徳寺、2019年3月29日。

イヴ・カドー (CADOT, Yves) 共同研究員 日本文化と武道

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

ジャン＝ミシェル・ビュテル (BUTEL, Jean-Michel) 共同研究員 日本民俗学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

塚田 穂高 共同研究員 宗教社会学、日本文化論

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

野口 生也 共同研究員 宗教人類学、ペンテコスタリズム研究

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

[その他]

- ・「朝鮮半島:分断とその後」『東京福祉大学国際交流センター「アジア文化論」講義資料集』、2018年9月。

牧野 元紀 共同研究員 東洋学・ベトナム キリスト教社会史

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

[論文]

- ・「日本の東洋学における太平洋史研究の構築に向けて—東洋文庫所蔵史料の可能性」甚野尚志・河野貴美子・陣野英則編『近代人文学はいかに形成されたか』勉誠出版、2019年2月、296-329頁。

[口頭発表]

- ・(講演)「ハワイと南の島々展:東洋文庫コレクションから紐解く楽園と秘境の知られざる歴史」ハワイ州観光局公式アロハプログラム、於東洋文庫、2018年5月11日。
- ・(講演)「ベトナムにおけるカトリック布教」メコン地域研究会、於大手町倶楽部、2018年6月18日。
- ・(基調講演)「ベトナムのキリスト教に関して」日仏東洋学会ミニシンポジウム「クローデルと極東」、於京都大学人文科学研究所、2018年6月30日。
- ・(講演)「東洋文庫の貴重史料からみた長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」千石図書館文化講座、於文京区立千石図書館、2018年7月29日。

矢崎 早枝子 共同研究員 宗教学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

[単行本]

- ・*La chronique japonaise de Nicolas Bouvier* (共著) Infolio、2018

[口頭発表]

- ・“A lecture and workshop on Kimono The historical connections between Glasgow and Japan”, Kelvingrove Art Gallery and Museum, 2019.3.12.
- ・“Kimono”, Religious Dress in the Flesh event, St Mungo Museum of Religious Life and Art, 2018.8.26.
- ・「イギリスの大学における日本宗教の授業」、海外の大学で日本宗教についてどの様に教えられているか、於國學院大學、2018年7月1日。
- ・“Is the universality of Sufism a Western creation? Jewish Murshid Sam and Zen”, British Association for Islamic Studies Annual Conference, Exeter, 2018.4.10.

[その他]

- ・(Academic Consultant) Earth's Scared Wonders, BBC, 2018.10.-2019.3.
- ・(Discussant) Unveiling Sufism from Manhattan to Mecca by Dr Meena Sharify-Funk and Dr William Rory Dickson, Augustine United Church, Edinburgh, 2018.5.16.

ヤニス・ガイタニディス (GAITANIDIS, Ioannis)

共同研究員 医療人類学、宗教社会学、日本学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

一戸 渉 共同研究員 日本近世文学

担当研究事業「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の展開と国学史像の再構築」

[単行本]

- ・『近世の学芸と文学』総合研究大学院大学文化科学研究科日本文学研究専攻、2018年3月。

〔論文〕

- ・「松平定信の伊勢物語筆写活動とその周辺」『国文学研究資料館調査研究報告』39号、2019年3月、49-61頁。
- ・「風雅と教誡—松平定信の細写本歌書製作—」『国文学研究資料館紀要 文学研究篇』45号、2019年3月、63-91頁。
- ・「稲荷社祀官大西親盛の和歌—東丸神社蔵『松葉集』解題と翻印」『斯道文庫論集』53輯、2019年2月、97-165頁。
- ・「書道大師流と近世朝廷」飯倉洋一・盛田帝子編『文化史のなかの光格天皇—朝儀復興を支えた文芸ネットワーク—』勉誠出版、2018年6月、250-273頁。

〔口頭発表〕

- ・（講演）「国学と復古—光格天皇以後—」第1回国学研究プラットフォーム公開レクチャー、於國學院大學、2018年9月21日。

〔その他〕

- ・（コラム）「豆本作家、松平定信」『図書』840号、2018年12月、14-18頁。

小平美香 共同研究員 日本思想史

担当研究事業 「「國學院大學 国学研究プラットフォーム」の展開と国学史像の再構築」

〔論文〕

- ・“Femail Shrine Priests and Doctrinal Instructors in the Early Meiji Moral Edification Campaign” MONUMENTA NIPPONICA Volume73. 2018.12.2., pp.213-244, (Translated By Michael Burtscher)

〔その他〕

- ・（要旨）「第三セッション 日本思想とジェンダー：神道における女性観の形成—日本思想史の問題として—」『日本思想史学』50号、2018年9月、44-51頁。

小田真裕 共同研究員 日本近世史

担当研究事業 「「國學院大學 国学研究プラットフォーム」の展開と国学史像の再構築」

〔論文〕

- ・「近世後期、東総地域における村長（むらおさ）と百姓」『関東近世史研究』第82号、2018年10月、30-53頁。
- ・「幕末維新期の思想史研究と「明治150年」」『歴史学研究』第974号、2019年1月、53-59頁。

〔口頭発表〕

- ・「下野牧周辺地域における部落史関係史料」東日本部落解放研究所2018年度第1回歴史部会、於台東一丁目区民館、2018年6月16日。
- ・（講演）「国学研究への入り口—生涯学習の観点から—」第4回国学研究プラットフォーム公開レクチャー、於國學院大學、2019年3月4日。

〔その他〕

- ・紹介（歴史の証人）「奈良曆師吉川家旧蔵資料」『歴博』210号、2018年9月、16-17頁。
- ・紹介「須田努著『吉田松陰の時代』」『歴史評論』821号、2018年9月、106-107頁。
- ・大会報告批判「2018年度歴史学研究会大会報告批判 特設部会」『歴史学研究』978号、2018年12月、59-61頁。
- ・調査報告「旭市イ（旧網戸村）玉置勘一郎家文書」『紙魚之友』40号、2019年3月、1-5頁。

芹口真結子 共同研究員 日本近世史

担当研究事業 「「國學院大學 国学研究プラットフォーム」の展開と国学史像の再構築」

[論文]

- ・「真宗寺院と清内路門徒」吉田伸之編『山里清内路の社会構造—近世から現代へ』山川出版社、2018年9月、196-224頁。

[口頭発表]

- ・「近世期浄土宗・真宗間における宗名論争の再検討—安永期を中心に—」佛教史学会6月例会、於龍谷大学、2018年6月16日。
- ・“Ordinary People and the Circulation of Knowledge Surrounding Religion” (Panel session “Religious Power in Early Modern Japan: A Tool of the Shogunate?”), Association for Asian Studies 2019 Annual Conference, Denver, USA, 2019. 3.23.

[その他]

- ・(コラム)「仏教教導職の教化活動」岩田真美・桐原健真編『カミとホトケの幕末維新—交錯する宗教世界』、2018年11月、224-228頁。

古畑侑亮 共同研究員 日本近世史・思想史

担当研究事業 「[國學院大學 国学研究プラットフォーム]の展開と国学史像の再構築」

[口頭発表]

- ・「工藤航平『近世蔵書文化論 地域〈知〉の形成と社会』から考える」工藤航平『近世蔵書文化論—地域〈知〉の形成と社会—』書評会、於明治大学、2019年1月14日。
- ・(講演)「布佐村陣屋からみえる幕末の一宮—金沢甚衛旧蔵「御料私領御用留」の紹介にかえて—」文化財連続講座「加納家と一宮」第1回「幕末・明治の一宮と加納家」、於一宮町中央公民館、2018年5月26日。
- ・「幕末・明治における新井白石著作の出版—白石社の出版活動とその継承—」第119回「書物・出版と社会変容」研究会、於一橋大学、2018年4月7日。

[その他]

- ・(資料紹介)「金沢甚衛旧蔵資料「御料私領御用留」」『大倉山論集』65輯、2019年3月、267-322頁。

三ツ松誠 共同研究員 国学史

担当研究事業 「[國學院大學 国学研究プラットフォーム]の展開と国学史像の再構築」

[単行本]

- ・三ツ松誠・吉岡誠也・出口智佳子編著『幕末の佐賀と学問—明治維新への道—』佐賀大学地域学歴史文化研究センター、2018年7月。
- ・徳安和博・三ツ松誠・佐賀大学美術館編著『佐賀藩十代藩主鍋島直正展』佐賀大学美術館、2019年1月。

[論文]

- ・「平田神学の遺産」『宗教研究』392号、2018年9月、183-205頁。
- ・「中島広足『佐嘉日記』と野中古水」(増補再掲版)伊藤昭弘編『佐賀藩薬種商・野中家資料の総合研究—日本史・医学史・国文学・思想史の観点から—』佐賀大学地域学歴史文化研究センター、2019年3月、75-86頁。

[口頭発表]

- ・「帰って来た王室家—明治初年の尊攘派の位置をめぐって—」明治維新史学会例会、於明治大学、2018年4月7日。
- ・「帰って来た王室家—明治初年の尊攘派の位置をめぐって—」第48回明治維新史学会大会(シンポジウム「慶応三・四年を問い直す」)、於駒澤大学、2018年6月9日。
- ・「佐賀藩の国学・神学」第29回明治聖徳記念学会公開シンポジウム「平田国学の幕末維新」、於明治神宮、2018年7月14日。

- ・「幕末歌壇のなかの古川松根」佐賀大学地域学歴史文化研究センター第12回地域学シンポジウム「幕末佐賀の歌人たち—直正と小車社—」、於佐賀大学、2018年9月23日。
- ・『当世百歌仙』の刊行とその周辺」日本近世文学会平成30年度秋季大会、於愛媛大学、2018年10月21日。
- ・「紀州藩と本居派国学—内遠期を中心に—」第116回史学会大会日本近世史部会シンポジウム「武士と学問」、於東京大学、2018年11月25日。
- ・（講演）「志士たちの学習法～幕末佐賀藩の事例から～」放送大学佐賀学習センター開設20周年記念公開講演会、於グランデはがくれ、2018年6月2日。
- ・（講演）「弘道館の学生生活」佐賀大学名品展「幕末の佐賀と学問—明治維新への道—」講演会、於佐賀大学、2018年7月22日。
- ・（講演）「幕末の世界から見る佐賀（世界から見た佐賀）」地域連携型佐賀大学公開講座、於有田町生涯学習センター、2018年10月31日。
- ・（講演）「よくわからない副島種臣」佐賀市立図書館共催佐賀大学公開講座「私が教えたい佐賀の歴史と文化 100分集中講義」、於佐賀市立図書館、2018年11月17日。
- ・（講演）「佐賀藩弘道館の学習方針をめぐって—草場佩川と若者たち—」放送大学佐賀学習センター出前公開講座、於東原庁舎、2018年12月15日。
- ・（講演）「西川須賀雄と明治の宗教改革」佐賀大学平成30年度公開講座「歴史に埋もれた佐賀「賢」人を探せ!」、於佐賀大学、2019年1月13日。
- ・（講演）「国学政治思想史研究の現在」第2回国学研究プラットフォーム公開レクチャー、於國學院大學、2019年1月25日。
- ・（講演）「維新政権と国学者丸山作樂の政治思想」第三回長崎県学術文化研究費補助金成果発表会、於長崎県庁、2019年2月11日。
- ・（講演）「佐賀藩の神学寮と明治維新」佐賀大学公開講座 みんなの大学 特別企画「幕末佐賀の新しい視点」、於佐賀大学、2019年2月16日。

[その他]

- ・三ツ松誠・金炯辰「回顧と展望 日本（近世） 11 思想・学問」『史学雑誌』127編5号、2018年5月、135-140頁。
- ・「学会展望〈アジア政治思想史〉 吉田麻子『平田篤胤 交響する死者・生者・神々』」『国家学会雑誌』131巻5・6号、2018年6月、67-70頁。
- ・（コラム）「さくら先生」『雅俗』17号、2018年7月、143-144頁。
- ・（資料紹介）吉田宰編、手紙を読む会「青柳種信関連書簡集（四）」『雅俗』17号、2018年7月、169-171頁。
- ・（コラム）「近世史のなかの「国家神道」？」『戦後史のなかの「国家神道」』山川出版社、2018年10月、204-209頁。
- ・宮地正人・遠藤潤・三ツ松誠・阪本是丸・松本久史「シンポジウム 平田国学の幕末維新」『明治聖徳記念学会紀要』復刊55号、2018年11月、111-161頁。

井上順孝 客員教授 宗教学、宗教社会学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

[単行本]

- ・『寄り道の宗教エッセイ』非売品、2019年2月。
- ・『解きながら学ぶ日本と世界の宗教文化』（宗教文化教育推進センター編、編集委員長）、集広舎、2019年3月。
- ・『海外における日本宗教の展開—21世紀の状況を中心に—』（宗教情報リサーチセンター編、責任編集）、宗教情報リサーチセンター、2019年3月。
- ・『日本における外来宗教の広がり—21世紀の展開を中心に—』（宗教情報リサーチセンター編、責任編集）、

宗教情報リサーチセンター、2019年3月。

【論文】

- ・「オウム真理教事件を契機に創発した議論の展開—深まらない分析の背景にあるもの—」『ラクベリ』79号、2018年8月、65-79頁。
- ・「神道教派の境界線形成と二種類の認知プロセスの関与」『宗教研究』392号、日本宗教学会、2018年9月、1-30頁。
- ・「暴力」と「認知バイアス」にどう気づくか『中央公論』2018年9月号、144-151頁。

【口頭発表】

- ・「20年間の学生宗教意識調査から読み取れるマスメディアの影響」日本宗教学会第77回学術大会、於大谷大学、2018年9月8日。

【その他】

- ・(講座) NHK文化センター「グローバル時代に求められる宗教文化の基礎的素養」2019年1月17日、1月31日、2月7日、2月21日、3月7日、3月28日。
- ・(講演)「宗教社会学」於警察大学校、2018年6月14日、9月11日、11月26日、2019年2月26日。
- ・(講座) 朝日カルチャー「戦後日本の社会と宗教」4月23日、5月28日、6月25日、7月23日、8月27日、9月24日。
- ・(講演)「世界の宗教概論」JOC国際人養成アカデミー、2018年7月15日。
- ・(講演)「神道と日本人」於不識庵、2018年5月18日。
- ・(講演) 曹洞宗教師連合会研修会「カルト問題と禅」於東京グランドホテル、2018年9月27日。
- ・(講演) 高野山大学フジキン小川修平記念講座「カリスマは「神の賜物」か？」於帝国ホテル大阪、2018年11月19日。
- ・(講演)「世界を理解するための宗教入門」於不識庵、2019年2月23日。
- ・(講演)「揺れ動かされる宗教への視点～21世紀の宗教文化教育の課題」於福岡市、2019年3月2日。
- ・(テレビ出演)「國學院大學井上順孝教授 退職記念講演会」スカパー529チャンネル、2018年5月19日。

櫻井義秀 宗教社会学、アジア宗教文化論

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

【単行本】

- ・(編著)『宗教とウェルビーイング—しあわせの宗教社会学』北海道大学出版会、2019年3月。
- ・(分担執筆)“A management Perspective on the Mission Strategies and Global Organizational Structure of the Unification Church”, Smith,Wendy, Hirochika Nakamaki, Louella Matsunaga, and Tamasin Ramsay (eds.) Globalizing Asian Religions: Management and Marketing, Amsterdam University Press, 2018. pp.65-84.

【論文】

- ・“Sexual Abuse in a Korean Evangelical Church in Japan”, Journal of Religion in Japan 6-3, pp.208-240, Brill.
- ・「人口減少時代における<限界化する>宗教法人」『宗教法』37号、宗教学学会、2018年10月、95-114頁。

【口頭発表】

- ・「宗教とウェルビーイング—研究の視点と方法」北海道社会学会大会、於北海道教育大学、2018年6月9日。
- ・“Conservative Swing of Japanese Politics and Soka Gakkai’s Political Participation,” East Asian Society of Scientific Study of Religion, Singapore Management University, Singapore, 2018.7.4-6.
- ・“How do rationality and empathy deal with “well-being” and “well-dying” in organ transplant and life-prolonging medication? ”, International Meeting of Sociology, Toronto Convention Center, 2018.7.15-

20.

- ・(企画・座長)「シンポジウム「科学、アート、スピリチュアリティ」」日本スピリチュアルケア学会大会、於藤女子大学、2018年9月29-30日。
- ・(講演)「アイヌ民族の現在と日本社会」於ナレースワン大学人文学・社会科学科、2018年11月3日。

[その他]

- ・(コメント)「テーマセッション 宗教研究において「実証的研究を行う」とはいかなることか」『宗教と社会』24号、2018年6月、203-204頁。
- ・(評論)「現代日本の宗教最前線59 今もつづく黄泉の国への葬礼」『月刊住職』2018年4月号、134-137頁。
- ・(評論)「現代日本の宗教最前線60 中世ではなぜ死者を遺棄できた」『月刊住職』2018年5月号、140-143頁。
- ・(評論)「現代日本の宗教最前線61 国家公論が中国朝鮮にあり日本にない理由」『月刊住職』2018年6月号、132-135頁。
- ・(評論)「現代日本の宗教最前線62 激動中世に仏教が必要だったわけ」『月刊住職』2018年7月号、134-137頁。
- ・(評論)「現代日本の宗教最前線63 なぜ追善供養が必要だったのか」『月刊住職』2018年8月号、126-129頁。
- ・(評論)「現代日本の宗教最前線64 肉親との死別に服喪儀礼の深意」『月刊住職』2018年9月号、126-129頁。
- ・(評論)「現代日本の宗教最前線65 ブラックアウトは北海道だけか」『月刊住職』2018年10月号、22-25頁。
- ・(評論)「現代日本の宗教最前線66 これまでの墓から見たこれからの墓の姿」『月刊住職』2018年11月号、136-139頁。
- ・(評論)「現代日本の宗教最前線67 誰にでもあるスピリチュアリティ」『月刊住職』2018年12月号、130-133頁。
- ・(評論)「現代日本の宗教最前線68 墓じまいの時代となり寺院は何をなすべきか」『月刊住職』2019年1月号、142-145頁。
- ・(評論)「現代日本の宗教最前線69 終活世代に迫る親と自分の葬儀」『月刊住職』2019年2月号、132-135頁。
- ・(評論)「現代日本の宗教最前線70 女性の気持ちがこれからのお寺を決める」『月刊住職』2019年3月号、132-135頁。

土屋博 客員教授 宗教学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

ナカイ・ケイト (NAKAI, Kate W) 客員教授 日本思想史

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

山中弘 客員教授 宗教社会学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

林淳 客員教授 日本宗教史

担当研究事業「[「國學院大學 国学研究プラットフォーム」の展開と国学史像の再構築]